

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 JAPAN

古老傳聞記

リ 5

2987



古老傳聞記

伊
2987

門
2987



右老傳聞記上

海和林の奥様代事

海和林代奥様寃、初ハ石川長門守康通林の沙
島やうひのゆゑをもとハ、御内侍の林當代中難
あさき石や 即ちの林ハ、多子多難を有り、取締係の奥様トモ、御内侍
中家内侍代、御経室は、徳永石見守大通臺守昌林代
而島やう即法号、光熙院稱、申すつゝ御内侍
内之宿乃即前林玉鶴也。 徳永林ハ、太田秀吉の子也、
大名後代も須の如き。

左迎右老傳聞記上

一即嫡子左近主康政林の右老傳聞記上

明治四十二年七月
小久江成一氏寄贈

又康政様代印勅送在酒井讚波守忠勝の
印自是より後又印勅送在近康詔松山初名總義
之子也ハ印勅送在酒井松氏印外孫也
水野自向守勝貞役士内藤守之子也
水野信方子也即之也

雪云峯院孫印嫡子印事

一印嫡子近江守康政印孫白泉利作印
あやく宣永八年來年印病氣之年印憲養老
叶信之印次男大膳康時孫印年九歲即之也
印嫡子成以嫡也印於後役内ハ後無事也奉
印

雪云峯院孫印事也是ハ附室母見生姫孫也印子也
海加孫也印の在方義義也印在草屋處康時孫也年
草屋處康時孫也印子也印

院

見生院孫印事

一見生院孫印事也是ハ附室母見生姫孫也印子也
相模元重娘也印子也孫也印子也相模也印子也
母方氏也印子也元氏也印子也印子也
子也印子也。世山代也印奥也印子也。印象傳也印子也
氏也印子也。元和元和年大膳少佐の印姫娘也
里方也印子也。印象傳也印子也
翁也印子也。翁也印子也。翁也印子也。翁也印子也

江別の五年六月右内内都主事の職を相続せし者
抱られ 大脇林田氏に付す

雪彦院林即ち五年の四月花葬事

一 在近東ニ康政林ゆ期モトモ 元照院林ハソモ
伊予府松山初年下ても寔は御の御の事より端疎御相
沙彌あると云ひひがと云ひ 四月ニ康政林代ゆ所
石川某あらふ野ノ石川家の實名ハ佐昌之字五郎左衛門姓也
名也御之室名古義有也云也御名也御名也御名也御
名也御之室名古義有也云也御名也御名也御名也御
仰もさしれぬシテと云ひ酒井譲林子經カ酒
井也御也御也御也御也御也御也御也御也御也御也

酒井也御也御也御也御也御也御也御也御也御也

仰も相シ酒井守林力也それび多魚也御也御也
五郎也御也御也御也御也御也御也御也御也御也
られば又よシ生也島也御也御也御也御也御也
事也御也御也御也御也御也御也御也御也御也御也
沙彌也御也御也御也御也御也御也御也御也御也
御也御也御也御也御也御也御也御也御也御也御也
もてつておれや。一卒也御也御也御也御也御也御也
河内信昌源三郎也御也御也御也御也御也御也御也
御也御也御也御也御也御也御也御也御也御也御也
石井也御也御也御也御也御也御也御也御也御也

志江白石山中年

拾古通印證文

一 戰國之末也仕馬王也指也過也 印記文也

奧孫沙郎乃本氣象の次第也 重慶多院沙羅波

者也望而知也家也得也

泰山頤院孫即代公家是九卿也也而也也而也也

也也家也也也也也也也也也也也也也也也也也也

以印使文也

之得也也書也也五更也也自道也也印使文也也

也也家也也也也也也也也也也也也也也也也也也

雲峯院極內家書初也亦知此書

一 雲峯院極節秋宜寒承土厚年八月不言歸家書
至汝不還江之也也 印同年舊列完榮也也而也
者也修和極多也也遺金也也同不也也而也內
令極多也也也也也也也也也也也也也也也也
之也也也也也也也也也也也也也也也也也也
石尚松年任歲康紀松也也分知避也也也
曰百石室也也領和也也也也也也也也也也
文代也也也也也也也也也也也也也也也也也
年也也也也也也也也也也也也也也也也也

山家中志江白石山中年

一 滋根株即代母相付付也。已家事也。方知はれ
ら未完需要即而始之。内分事も有。其事了了。物故がい
御外。始く大通の收納減。迷惑事も二事に由る。小
事比向く是と組合ひ。或り而後。其事一見出處が接
早持手前。年々多難。あひきへり。既生照政。左
れ西川物即に。左近。即義有格。よしや傳。

源田政宗公居内密文

一 雪云里の隠林即代。さる年二十五年。源田公即而蒙其事
作成。未だ後。源田公即而蒙其事。即たる足と御用
代とのうて。左近。三百石也。歴五部。やとい。即天慶代。
只人をみや急脚。即然まよが地新。まよ仕事。あふ
果。承く也。眼取。坐り。とも大切。と。の。よ。思ひ。膚扱
う。も。何事。即。も。あ。ま。仕。公。内。即。論。う。も。よ。す。も
始。と。も。手。の。活。ま。や。り。と。も。無。か。也。お。せ。と。立。往。ま。即。業
あ。の。收。修。事。活。や。と。も。洋。脚。と。各。事。即。事。方。信。三
あ。の。沙。館。即。住。同。方。信。事。者。不。即。寺。セ。て。あ
一。立。セ。て。う。も。三。

仰自引立。お物。即。推。二。床。机。小。四。裁。小。約。江。加。小。次
口。口。底。二。花。符。支。二。代。流。小。和。店。第一。次。所。房
魚。底。二。キ。面。下。三。底。二。口。底。二。房。口。底。二。房。

とを聞かしめり。由玄國よりお向ふも小家を起ら
初ちりの際より、住む所、後もいにまくとある
の山腹まで上りて、ひきこもる所は刀と丸の下りて
脇持のねじ文をのぶたる。ものめぐらすは因の西を娘
を人間のを馬場はるかに思へられ。作られ四
馬の車をもとからて渡る。海の半島を駆けめぐらす
穴やとと前らの廢宮と名をあらわす。海の西を駆けめぐらす
くお見立とよと活躍とおもふ。一馬の車をもとからて
お作れとて、車前海のあへ。一馬の車をもとからて、車の東を
あわせとて車前海のあへ。一馬の車をもとからて、車の西を

と車の東をもとからて車の内をもとからて、車の東をもとからて
と車の東をもとからて車の内をもとからて、車の東をもとからて
車の東をもとからて車の内をもとからて、車の東をもとからて
車の東をもとからて車の内をもとからて、車の東をもとからて

中演論之事

一 同門代裏を起と年耳の冬、馬伏と玄國組の内、中演
と萬和組のをもとからて、車の東をもとからて、車の内をもとからて、車の東をもとからて
論不活で唱へ、流の金を車の内に使ふ事多見る。
えどももとからて車の内をもとからて、車の東をもとからて、車の内をもとからて、車の東をもとからて
車の東をもとからて車の内をもとからて、車の東をもとからて、車の内をもとからて、車の東をもとからて
車の東をもとからて車の内をもとからて、車の東をもとからて、車の内をもとからて、車の東をもとからて

主事の事とすま相手あておこなひてよ此年もう人ねに
敷かねばの事相ものとのとて勞がまの又ぬや一海中
逃れり越波シテかたへてひそかに件の旅を渡し、とうやのあひも
宿泊の臣姓スミハシ五言席ゴヨウセキとすの姫門ヒメノマジへとまつ合せとねね
おひへね宿スルよとめらんと同は者ドウハモノとお繋ミツと年とそれ
はあお松アオマツと紫シタマツと青シモツマツと白シロマツと解ハサカ
れてあらうとす後村アラフムラを併ハタハタて大年オトコのゆきやまの御解ミツカ
かたおゆの方カタオカを度ハタハタと御合ハタハタひとと古歴コクレクと云ハタハタて
自以ソイあら席シタマツと青シモツマツと白シロマツと解ハサカと急会ハヤシタ扱ハサカ
ア月ツキで通ハタハタに御宿ミツカの深シタマツをまちに移ハタハタようらかの心ハサカをもる

角ツバは看ハタハタと云ハサカの所ハタハタ又ハタハタめられぬ威ハサカ強ハサカの御姿ミツカを
津和野ツノハラの執政家シツジョンカを立ハタハタ湖ハタハタに承ハタハタての氣ハサカをもる
がくハタハタの間ハタハタを空ハタハタにひじハサカの命ハサカかけの筋ハサカ十政ハサカと云ハサカすもあす
たまハタハタのゆゑ方ハサカであるが前ハサカあゆハサカと不居ハサカをあひの貢ハサカ重ハサカ
度ハサカをもゆハサカ一門ハサカ極ハサカすれども内ハサカ御古ハサカ想ハサカお重ハサカ
五層ハサカやひけ附ハサカ三面ハサカ内ハサカ御日ハサカ望ハサカ津ハサカの西ハサカを一
からぬ承ハサカと申ハサカ取ハサカをもとあらうと云ハサカいふ事ハサカを也ハサカ思ハサカふ

雲夢の奥林の奥林ハサカ

一 雲夢の院林の奥林ハサカ是次と農寧宣藤役ハサカ即身ハサカも
久松ハサカも承ハサカゆ法ハサカも 徒相院ハサカ申ハサカすにひゆひ腰ハサカ

少卿
丙子年仲夏
月夜
陽江
月夜
丁巳年仲夏
月夜
陽江

同治乙未年九月
吳昌碩

一仰慕其法号松化院禪照以中等為綱。安政院乃
實相也。仰慕之而至安政院也。從生於此之後
也。第後山改寫經也。也。是也。而有故也。是方
將動于一也。庚午。市。貞觀也。

公休酒井執事忠固極小內鄙於此也
松柏荒涼也雖殊之子方林東流可仰望也自

公卿の事よ 服改めに登勅め被り候元富政相が也。至多の御恩寵
おもて正後院御内親王と申す。公也の御子也。右院に於ける
御内親王。宝永二年九月八日御誕生。市之松山の源
さる年年三月の日が御誕生日也。左之馬越町御堂
御内親王御誕生日年九月八日御誕生。御内親王御堂
御内親王七乃翁の御應の御内親王也。御内親王御堂
御内親王御誕生日年九月八日御誕生。御内親王御堂
御内親王七乃翁の御應の御内親王也。御内親王御堂
御内親王御誕生日年九月八日御誕生。御内親王御堂

主計政様と申せり。延宝三年二月大内有

内家書。帝在後以爲家。作門。周防守様と申
改め。即四代目泰顕。院様御事也。是ハ以テ主計
布政使と唱出。自井氏法名瓊光院。即守の次第
也。右即誕生後他處住居。或元室承。延宝九年九月
文官日記小文卷今本。江戸に於て即源氏傳
者。即守。即誕生後。瓊光院様由引取。

支那様也。祖母も内加。有る事は御前様を今白
文三。即承。又室。永二丙午。而始終。云々。此の事
わざ。即承。即承。即承。即承。即承。即承。即承。
一即四男。在草。即承。康明様。即室。每。ろ性院。即承。
西。即承。即承。即承。即承。即承。即承。即承。即承。
即承。即承。即承。即承。即承。即承。即承。即承。
即承。即承。即承。即承。即承。即承。即承。即承。
即承。即承。即承。即承。即承。即承。即承。即承。

泰顕殿。院様。即家。即海胆。延宝四年十一月十九日
即領。即領。即領。即領。即領。即領。即領。即領。
玉。王水。病亂。不。療。養。不。行。叶。終。四月
廿。日。丙午。即。延。宝。五年。即。貞。享。二年。
即。領。即。領。即。領。即。領。即。領。即。領。
内。八。色。石。村。官。用。村。村。即。符。布。施。村。即。符。布。施。

お方御心より材木より地より取れ而河口より運用即ち

東北安政ノ五年正月御詔勅より御内閣主事

一 仰の御大草木の重元在内定每光復漢北に在る日ハ
内旗即ち被拂候爲重元在内定は御内閣主事御内閣
宣室御内閣主事御内閣主事御内閣主事御内閣主事
御内閣主事御内閣主事御内閣主事御内閣主事御内閣

西云里の虎林御遺言は事一

一 西云里の虎林御傳御室ニ宣年於延慶丙寅氣

少齋是不居の叶終于十二月大晦日之北尚遠矣

仰遺言小よす也傳信至矣也節う將秀略

仰遺體也山林佛有れ虎林同其事也亦有女也葬矣

内江ノ付後室曆九鉢半能利右御身也 仰而望之身立於其前

仰三靈虎林御傳體也也承於孤臣虎林裔相傳也

古老傳聞記中

松井翁志清承之由服正室事

一泰山廟院有御家齋ハ延寶二年也同八申年九月有
故宮主松井五三郎重心達之子承之由服加事
也故主是ハ今年西丸丸の御署所

御廟中

麌有服被薨去之御門才セ至焉御言事御事
而御門歎りて御香取左向行乞清元吉子の後不申
仰意之ニシテ仰門歩セ之御詔文として正使天子之
御門正直御曾及五萬兩也之をす御忽かモ是
小女嫁ひ五萬兩也之を御詔文書は安樂是御天子也
御門之御門也御原不直在御門也御

御門之御門也御原不直在御門也御
也御門之御門也御原不直在御門也御
也御門之御門也御原不直在御門也御

御門之御門也御原不直在御門也御

右御門之御門也御原不直在御門也御
次第御門之御門也御原不直在御門也御
御門之御門也御原不直在御門也御
御門之御門也御原不直在御門也御

御門之御門也御原不直在御門也御

御門之御門也御原不直在御門也御

御門之御門也御原不直在御門也御

御門之御門也御原不直在御門也御

松草ニシテ馬車ノ用馬車人一張右

立之馬車由家老弘作

一 松草ニシテ馬車用馬車人元長西行天和二歲
三月吉山家老弘作右を五人入

泰顥跋地内近子馬車右。康成八 雪裏子院林内金等
灰び文書等元長八月家作右元直次男と元直妻
宗樹院とすハ 雪裏子院林内作右文通左等

松草ニシテ馬車用馬車用馬車

立之馬車

一 國代貞享三宣年國田竹庭元昌官草乃老
年病。王以病棄不居里。嫡子玄力元豐三病
自薦羅衣牆跡象進像。又。如年三十力大
算松草ニシテ馬車用馬車人也。信作五左近處
作作。作作。國田頼母元朝。五政。國田御年七月
竹庭元昌病死。家有相傳。作作。作作。作
時子玄力。玄力。玄力。玄力。玄力。玄力。玄
之孫。玄力。玄力。玄力。玄力。玄力。玄力。玄
玄母。玄母。玄母。玄母。玄母。玄母。玄母。玄
後元孫三年。比年始。若作右。五政。

馬車用馬車用馬車用馬車用馬車用馬車

立之馬車由家老弘作

一 松草ニシテ馬車用馬車用馬車用馬車用馬車

三代目末馬英元
元長陽子後也 松平金吉而康源極也合掌傳三郎と
まつむと一草太元翁と稱て後家督お渡し
徳永元湯と五政陽長後は情愛と友鷗ともい山友國
泰昌院院林田原守と名乗る 本多守後林内会守松平金吉と
是ハ生ひ立候故にと引し外 田原小五叶之門
由佐用之取を免角を和らとの事へ後中根もて
あくまめ 本多守の家が初承伯位と内石川吉左衛門属
了地を元湯口松山役に 仁貞は内多磨守
年老の爲め和り方々正月年次を宣へ
さよゆきとがま終ニハ二元湯大持年二月乃日正月
後内便ち地代賃役に五政達と云 仁貞の院
院林田原守 因致と手立と月立と年立と
物ハ先づ内仁の院林田原守の省うる他に元湯
文子二人承て而爾又手立と月立と年立と
元湯大持年二月立と年立と月立と年立と
院林田原守若殿林田原守の省うる他に元湯
元湯十二年九月詔書 仁貞の院林田原守
元湯大持年二月立と年立と月立と年立と

九原指掌錄 作公

古今之事

一 泰國慶應丙午代陽陽鳥居之空室元初壬和
元丙年內家事 神明社主是美振石川上毛口印通
三刻五更ノ時 終日坐ノ事年 未ニ貞吉子ニ宣
年未出山房年 仰月年 月より山房ノ一宣年とナニ
之後乙未十二卯年 ト 圓十七政元室承元丙年と
丙年 ト 未ニ刻五更ノ事年 仰月圓ニ丙年
仰月辰ねり

泰國慶應丙午未年 ト 未ニ刻五更ノ事年
或別種仲人事と丙年未ニ刻五更ノ事年
仰月辰ねり丙年 ト 未ニ刻五更ノ事年
小切 改らぬる事と未ニ刻五更ノ事年 ト 未ニ刻
三刻五更ノ事年 ト 未ニ刻五更ノ事年 未ニ刻五更
未ニ刻五更ノ事年

小切 改らぬる事と未ニ刻五更ノ事年 ト 未ニ刻

仰月辰

一 泰國慶應丙午未年 ト 改元室承元丙年 丙月
几丸日第後櫻門事多後御の内事と未ニ刻
奉行号同前承元丙年 丙月 未ニ刻五更

丁

卷之三

泰嶺院落佈滿佛像沙彌勸導至深。系勸難以成
市居士以經。仰厚極以奉。

一 泰嶺院落佈滿佛像沙彌勸導至深。系勸難以成
市居士以經。仰厚極以奉。

不前抑而後揚。仰為寫此。

二日市居士。仰到者。

仰為寫南面至內村。府全在山巒。

以遠隔六日。拂和豐竹。仰為寫水。以遠隔

四月。市居士。仰正高二百。市居士。仰上高。

望盡柳南。南車北轍。井際。仰為寫此。

三月。市居士。次至邑。仰為寫此。

仰為寫。早速。國同。仰為寫。元。無。為。序。以。仰。為。寫。六。月。

而。立。五。月。以。以。附。端。子。禪。母。章。元。石。蓮。五。月。六。月。

父。子。之。歸。之。古。而。將。少。五。月。

加。夏。平。次。不。爲。切。腹。以。仰。月。由。佛。傳。而。照。之。

承。之。也。照。之。而。之。事。

一 同仰代天麻十六年七月。不育於。仰為寫。李。平。次。
右。山。院。名。行。至。去。之。年。大。日。僧。教。五。部。處。以。設。安。信。重。
科。切。腹。以。仰。為。之。同。氏。吉。所。之。居。并。松。井。海。大。之。七。
水。之。而。服。之。之。國。平。十。月。十。日。山。寺。住。之。勝。而。勝。之。
東。泰。院。落。佈。滿。佛。像。沙。彌。勸。導。至。深。系。勸。難。以。成。
市。居。士。以。經。仰。厚。極。以。奉。

元至治元年正月右司推官內管事
沙翁有子右司推官事

泰昌院標印領通鑑 沙至承印院之卷
沙翁子伯中也承印院事無由至卷之末
作矣沙翁子曰元祐為沙翁代 沙文代
之孫承印領通鑑此事

一
大目錄故以佛年正月沙翁二月沙翁三月沙翁
沙院標印領故以沙翁沙翁沙翁沙翁沙翁沙翁沙翁

印圖二

沙翁子伯中也承印院事無由至卷之末
作矣沙翁子曰元祐為沙翁代 沙文代
之孫承印領通鑑此事

丁

仰恩居 仰家督 仰之達

板中守 楊廷家

作 仰名 周防守 廉員梯 云成 仰政 賈則

泰 工部員外郎

事也 仰恩居 梯子 張而少弼 梯子 張

仰政 仁度

仰法 梯子 之子 停山孫

海國 仰曾

仰中厚 梯子 之子

恭嚴院 梯子 之子

仰病 梯子 之子 小甲等

代 仰雅

梯子 仰舍

代 仰義

梯子 仰義

作 仰義

梯子 仰義

室 永二年

九月九日 仰義

海國

梯子 仰義

信

梯子 仰義

仰政

梯子 仰政

仰義

梯子 仰義

室 永二年

八月九日 仰義

海國

梯子 仰義

信

梯子 仰義

仰政

梯子 仰政

仰義

梯子 仰義

信

梯子 仰義

仰義

梯子 仰義

信

梯子 仰義

仰義

梯子 仰義

仰義

梯子 仰義

仰義

梯子 仰義

往古より凡ての死を自らの権力に任す事と
人自害は近づく事無く更に甚る事無く此の
實は向へ氣を失ひて死を取る事と自害と神と不敬
寺のやうな事と主として之を如て利口なる所
五教の色と又東洋の神一宗國引せ宗家と仰る事
同年南十肩跡罪と仰る事と在居する医術等に於て
考究したる所は既にそぞろ傳抄を以て廣め方被せがゆき行けり
也アハ。

嘆号大忠承之山脈代事

一 嘆号大忠承之山脈代事年十月夜次

仰名彦林承之山脈代事と云ふ事と聞聞仰る事と
仰不二重り候有て是乃重り事と傳合種お立事
内亂と義伯承之山脈代事達る事と云々と云う事
小五郎の事と仰り傳る事と傳代の事と又及第者と仰
仰名彦林承之山脈代事と云ふ事と聞聞仰る事と
仰名彦林承之山脈代事と云ふ事と聞聞仰る事と
大忠と云ふ事と傳合の事と云ふ事と傳代の事と又及第者と仰
仰名彦林承之山脈代事と云ふ事と聞聞仰る事と
仰名彦林承之山脈代事と云ふ事と聞聞仰る事と
仰名彦林承之山脈代事と云ふ事と聞聞仰る事と
仰名彦林承之山脈代事と云ふ事と聞聞仰る事と
仰名彦林承之山脈代事と云ふ事と聞聞仰る事と

泰福院承之 泰繁院承之代の 奥高
仰子極事

一 泰福院承之 奥高の阿賀院承之代の 奥高

高麗使伊豆守沙賈能持院林子事
仰懇領事。上御御宿御迎送松之使。後源御松
主院之四年。沙賈爵主女西康局林子事。沙賈
主院事。上御。內政事。和泉守。御承事。御承事。
一仰沙賈佐濃守康房林子事。内宮服沙賈。沙賈
御膳主事。沙賈。御衣。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。
御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。
御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。

一於蘭舟。沙賈。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。
沙賈。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。
沙賈。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。
沙賈。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。
沙賈。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。御膳。

一泰巖院。院の奥林。久世石和守。重之林。沙賈。院
之林。沙賈。院。元祐十二年。沙賈。院。之林。沙賈。院。
仰。沙賈。院。之林。沙賈。院。泰巖院。院。沙賈。院。事。事。
沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。

一信經。院の病。仰新造。院。沙賈。院。事。
信經。院。康三房。院。沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。
沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。沙賈。院。

久慕沙門不覺身老矣又聞至所因三喜既
於和衣而宿十日如是未出門一步也因病仰臥沙
室內つねあづみ寝居のまゝに仰氣足る間も沙室の邊
盛德院の山門を每小時の間もそれとても是も沙室
命下さる言の保ては仰年二月八日卯時沙室六日沙室
号毒蟲云院稱さず

信濃守康房板門逝去之事

一信濃守康房板門逝去之事
沙門瘦翁沙門法雲沙門法雲沙門法雲
名號叶落小寺成有仰年取捨定歲
沙門玄妙法雲入玄妙院爲甲子ノ年沙門
小山主晋齋院也即乃被乞作自處石川
平之西へ上裏檀上古方丈と云ふ
雲妙院沙門法雲沙門法雲沙門法雲
秀頤院爲沙門法雲沙門法雲沙門法雲
無念寺沙門法雲沙門法雲沙門法雲
房次第康勝院爲沙門法雲沙門法雲
經とは是も仰年拾八歲沙門法雲沙門法雲
沙門法雲沙門法雲沙門法雲沙門法雲
沙門法雲沙門法雲沙門法雲沙門法雲

松井義雨退致状

一
松井義雨後室承古之年二月六日於江戸印鑑
附身の處い候事と有 佐濃守松井義雨と申すれ
退致は 仰るを以て在坐と我坐を切取とて之
仰るを以て御身を假に仕合ひたる事は指し當て
か而のうんが、の者よりお控ひ候てより 仰り故
仰て書かく有圖言 仰て西洋車と之をやけす
意致つまむかうもすれ 有物候元家七仲子キヨラ宝永二四年と十二年
中止するを記す所と云ふ事はおぞと有るが、此の事は
かと云ふ事は前と有り、四年内役事とは、近々御身有りと云ふ事
有田五郎左衛門と申す者と有り、御身は、伊豆守源氏と申す者と
仰て書かく有圖言 仰て西洋車と之をやけす
之を以て之を申す事は、御身の事と有り、御身は、伊豆守源氏と申す者と
仰て書かく有圖言 仰て西洋車と之をやけす

一 佐治 痴鷹院泰巖院流傳ます

内閣文庫
印鑑

一
信濃守康房様へ致函狀を以て忽 仰奉事と
仰て書かく有圖言 仰て西洋車と之をやけす

一
御臣辰巳申す如れと申す事と有り、よも三年を以て
國司代者事と有り、松井全之義久内侍と
丹下和也と有り、仰て書かく有圖言 仰て西
洋車と之をやけす是ハ理至無矣、物々、ひづい信之實事

名承 呂三娘子
内侍下代小五娘子
三娘子
向書在先主之廟之乳母也亦曰小五娘子
少不自知之女也
劉氏所号皇廟昌濟王之女也
劉氏也號也
方也號也
劉氏也號也
東漢靈帝時也
泰康靈帝時也
年也
而稱也
唐也
唐也
唐也
唐也
唐也
唐也

王服
泰康靈帝時也
上也
也
也
也
也
也
也
也
也
也
也

義
作
月
八
印

印

周沂守康寧之孫也

盛德院指印

康寧孫也
金七郎康英孫也
泰康靈帝時也

泰康靈帝時也

任務守孫也

義陽侯

印家督也
印額書也
九月廿日印額也

印額也

印家督也

印額也

義と爲る事也。盛徳院様仰坐の御通し
候五鉢の般家運へ頗る時矣。是より來年又
御法より水あ仕合の事なり。元年

古老傳聞記下

石川兵庫、承了由假事

一 盛徳院様仰家督ハ宝永六年九月十八日也。同軍
三月十四日石川兵庫昌滋後援之都至る行跡。右
内省内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。
右内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。
承了由假事。右内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。
御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。
御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。

御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。御内侍。

立後是日移御舊家西之宮門立御所也

支冲院后様印高居代事

一 泰山院院落高居方丈印石以加金印下傳
後有方丈印金印而移上殿後之印高五萬
石余沙取筒内九柱安一西又改名之印五萬石
又 泰山殿落高居方丈印之印石宇物處より取
り出小立今年 宝永七言年十月记印 印高居様印等
定不西立す

之の様全處の後南藏以御くを 次和三

代ノ狀

相付

一 之様全處一清後室永六月九日高居江
院落高居方丈印 金印傳印下傳
高居院住野之殿 宮將れ 神代久處早速之印
退とて之を聖室永七言年二月高日御之通御此號
之同年三月二日代ノ高居院 谷口保之宿元燈山
作行者也 之四年自西往三月九日御
之者也 之四年正月御之德四本年三月吉日御
元泰之沙漏の方計御行者也三年同之德高院
元亨保元申年十月九日達之沙漏退中
沙漏之同年十一月百答高院元燈山御行者也

仰承之仰承之仰承之仰承之
仰承之仰承之仰承之仰承之
仰承之仰承之仰承之仰承之
仰承之仰承之仰承之仰承之

近藤公道所著

一
近藤公道所著
永文宣年二月十日永文所服
是六月廿四日馬口了石川者庫本配用
中庸者之本配用立本配用立名本配用
送本配用立本配用立名本配用立本配用
立本配用立本配用立名本配用立本配用
布施者本配用
六四年四月浦本配用
稻庭西多云源
本配用
西多云源
又
本配用
稻庭西多云源
本配用
稻庭西多云源
本配用
九月十日永文所服

近藤公道所著
永文宣年二月十日永文所服
是六月廿四日馬口了石川者庫本配用
中庸者之本配用立本配用立名本配用
送本配用立本配用立名本配用立本配用
立本配用立本配用立名本配用立本配用
布施者本配用
六四年四月浦本配用
稻庭西多云源
本配用
西多云源
又
本配用
稻庭西多云源
本配用
稻庭西多云源
本配用
九月十日永文所服

今村源吉所著
永文宣年二月十日永文所服
是六月廿四日馬口了石川者庫本配用
中庸者之本配用立本配用立名本配用
送本配用立本配用立名本配用立本配用
立本配用立本配用立名本配用立本配用
布施者本配用
六四年四月浦本配用
稻庭西多云源
本配用
西多云源
又
本配用
稻庭西多云源
本配用
稻庭西多云源
本配用
九月十日永文所服

御前書院の事と承る。此は事無く御前御内八月
丙午之日承て承て御内八月御内御内御内御内

御内御内御内御内

御前御内御内御内

一御前御内御内御内御内御内御内御内御内

於御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内
御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内
御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内

御前御内御内御内御内御内御内御内御内御内

一御前御内御内御内御内御内御内御内御内御内

御内御内御内御内

大切にて極處近年忠義であると
又君の萬代州へ之を送りを外

一御前御内御内御内御内御内御内御内御内御内
御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内
御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内

御前御内御内御内御内御内御内御内御内御内

八月御内御内御内御内御内御内御内御内

一御前御内御内御内御内御内御内御内御内
十六日丙午之日承て御内御内御内御内御内
御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内
御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内

御内御内御内御内御内御内御内御内御内御内

市古松子人持物記年正月三日後高麗七罪云
事無之初以作母名仕高麗父居多餘五死之因人山狀云石是名
多也五日而作母生後始之始後云石仕多名多也云石也

四則生主事

一 茶記也大々宝永元年行分三刻の事
一年と四年限お歴程已年ありの三刻也云而第省し此
御室小相次居候あるを而他云未年改行分三刻也
云作行是と云年計云西立の保元甲午行分五刻
上云刻は三刻也行分五刻也云行分五刻也
仰一門松子山公行令限年南中意も承ん云行分五
年も行令刻也減ぬも行分五刻也云行分五刻也
ト西行五年も間れに通す小山也云行分五刻也云
少貨も承る事も云後 自通院孫仰代云押移寛保也言子也云承二年
位代内侍承者也

谷右源吉清彌也通南総役 治免正後行
出發行房左義也也行五刻也行 分行分五刻也
牧物也新知或行名江下至山中老松也五刻也行
行分五刻也行分五刻也行分五刻也行分五刻也
矣家也行分五刻也行分五刻也行分五刻也行

一 谷口源吉清元治保和三歲有余言の保元甲午年
三月一日高麗役行分 仰母也大初内行分五刻也
行分五刻也行分五刻也行分五刻也行分五刻也

至多之多相勸進而相法前加是也前尾少相法
自同七寔年十一月大會禮三在殿後儀加

一國八年六月九日左通引作

沙阿

谷縣志

壬子歲癸年四月廿二日立
小大士等宗家耀宣大司馬等非分之物
有以自與如取之者亦不復得用
而以破壞之云惟自分善後及役人之
而役之もの方舉石任分限而大無之者
始終於事務之急切之時為期一月

我心惄然之不能已矣而上令不許
乃家抽大幕一令掌充勦之以持移百目之
整屋中居之同苟牧之即之彰之武之有
中充之而往之不以不以之發之不以不發之
而不以不以之發之不以不發之不以不發之
之不以不以之發之不以不發之不以不發之

右內使右御使外
大司馬等非分之物

一國八年六月大會禮三在殿後儀加

續入之家及取絕以

附意向

新

同姓源氏清流之年鑿辰甲辰吉日於
小笠原公齋奉書

三月安插右轡三月壬午日子時南歸下玄還山
乞奉公向一依何方也一切盡報公鑑

參照之能細說不疑

右內使石川守原知事南歸

忠義

大前門

乞照之

右川主鈴商藏役事

一右川主鈴宴登校言之保七、宣年十二月十八日谷屋

代り商藏役以御身はハ氣急少性貿ら無交
巣事之時也も此中少も東洋組に因若此行
百般之處かの事者恐因當事の也お申の體化と
言ひ得八和年二月十二日於右村三郎之次子久元
昆歎の事より回向家事敗露不取

一右川主鈴宴登校言之次汝汝於右村三郎

永元同七月六日之ノ同年の内五百家因明

志家代り御相送矣回向出外之ノ由

放以御身是之ノ家代り御相送矣如其梓

梓年二月

子れふ能く事。承へ少服シテ。

八

一 われは之於寛登辰巳の條三年五月三十日忌と稱
之焉南國に於此也。少々年ナシタヒトニ。

モトナリ。

印鑑伝承印逃亡之事

一 印鑑伝承印逃於清同印中而失。是保十二年五月
三日より脚病シテ、印逃亡。春秋七拾乞歲シテ。
可終水國九月五日、印逃亡。春秋七拾乞歲シテ。

院の同上。印の巣是安院古有る。又、印葬送云
豫備お候。印法事。

泰翁院極を称シテ。是後逃シテ。印法事シテ有
け。且右院シテ、之りと由猶人シテ、御持奉シテ。石蓮若而くへ
沙翁シテ。印鑑伝承印逃シテ。石蓮若の同年八月
古市シテ。之を尋シテ。神坐シテ。之を尋シテ。拾人シテ、印
門を守護松村近石シテ。口シテ。之を拾人シテ。拾人シテ。之を
手シテ。之を取シテ。之を取シテ。之を取シテ。之を取シテ。之を取シテ。

關西氣鑑之事

一 亨子保土五年四月氣鑑中平四年山東省シテ
一作前代來者シテ。之を求シテ。之を求シテ。之を求シテ。之を求シテ。之を求シテ。

ト

盛德院印跡之事

一 廣德院印跡事 保平乙午年秋 印歸妙行
汝宿氣未大吸す町医少家看此印跡後
某と向云看此印跡汝生せたゞれ候て印跡
不外也 叶紙か三月二日記れ 印跡事丙午年張羅
小石乃 廣德院印跡 印跡事是院止る 人
詮尋式之原得其印跡

盛德院印跡事 保平乙午年秋 印跡事
新井印跡事

一 谷口八吉清元次俊同甲十月各自加瑞至石井
取合五石井 印跡事
一 谷口八吉清元喬松井 恒傳詮言
朝五人一系丙德二辰年四月六日為之而雪每日
有動之石井 印跡事 (松井元江印跡事)
一 國田竹君清元元佐丙德之正年四月十五日加瑞
至石井取合三石井 印跡事

一 齊卿鐵塔寺智深印跡事 丙午年七月
印跡事 (寶永八年正月智深印跡事) 甲子年
正月智深印跡事 (寶永九年正月智深印跡事) 丙午年
正月智深印跡事 (寶永九年正月智深印跡事) 丙午年

一 佐野敏實、鹿賀勝保、室屋保、三月十九日、布志八巨石
立 佛像。頃初、勝利寺に於て、今正服安勝保依玄年八月五日
従事奉事也。南多布等作成し。中久、在り。作事不詳也。

一 佐野敏實人以下奉通

宝永七年七月五日

一 内かぬる石

石井本之進

日年十月九日

一 内かぬる石

勝利久之支

一 内かぬる石

奥平主義

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

福原貞之

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

吉村貞之

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

天知和良

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

三浦小左衛門

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

伊弉角之

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

三浦直之

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

岡川源太郎

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

奥平主義

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

若狭守

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

石舟虎之

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

有馬宣之

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

吉原主義

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

一 内かぬる石

奥平主義

白徒二年八月九日

一 内かぬる石

勝利久之進

右老傳聞記下卷
元祐丙子年歲次癸卯仲夏
王氏家藏
第一回
卷之二
右老傳聞記下卷
元祐丙子年歲次癸卯仲夏
王氏家藏

右老傳聞記下卷

